

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	エ	21
問二	ウ	22
問三	エ	23
問四	ア	24
問五	イ	25

(順不同)(全答)

問六	欲	26
問七	所狭	27
問八	エ	28

問九	し	29
問十	エ	30
問十一	は	31

2

問一	①	32
日本		
問二	②	33
世界		

(全答)

問二		
良	に	そ
し	あ	れ
て	う	ぞ
い	よ	れ
く	う	の
か	に	民
ら	す	族
。	る	が
	た	自
	め	分
	、	た
	作	ち
	物	の
	を	味
	改	覚

33  
34  
35  
36

問三	イ	37
問四	エ	
問五	A	38
ア		
メ	リ	39
カ		
B	農	(全答)
業		
生		
産		
物		

<b>5</b>		<b>4</b>		<b>3</b>				
⑥	①	④	①	①	問十一	問九	問六	
評判	歴史	A	A	ウ	ア	ウ	ウ	
		百	一	②	イ	↓イ	問七	
61	56	B	B	46	ウ	↓ア	A	40
		百	一	③	エ	オ	道	
⑦	②	⑤	②	47	オ	(完全)	具	(完全)
銅貨	余計	A	A	48	ア	問十	B	(完全)
62	57	九	二	49	イ	土	たい	43
		B	B	44	工	(完全)	い	41
⑧	③	一	三	50			へ	(完全)
備	悪夢	(完全)	③	51			ん	(完全)
63	58	55	A	52			重	41
			四	53			問八	(完全)
⑨	④		B				工	42
任	貿易		八					
64	59							
⑩	⑤							
迷	復習							
65	60							

  

(配点)

① 各5点  
 ② (問二) 8点、(問八) 2点、他各5点  
 ③④⑤ 各2点

計150点

【解説】

1 八束澄子「ぼくたちはまだ出逢っていない」（ポプラ社）から出題しました。母親の再婚により、生活環境が大きく変わった美雨のとまどいや自分のなかの矛盾に苦しむ心情、また好きなものに出会えたときの喜びなどをセリフや行動から読んでいに読み取りましょう。

問一 B1 関係つけ 比較

①の直前に「親にはぐれた子ネコみたいに、直後に」どんな自分に自信が持てなくなつて」ともあるので、心細さがあらわれる「びくびく」がふさわしいといえます。

問二 B1 具体化 比較

線②の五行前に「ぎよつとして」とあり、線②の後、激高していることから、あまりに心外なことを言われて、怒りで打ち震えているのだとわかります。美雨は母親に「美雨のためにもつて思つて自分は再婚した、母親の再婚によって安定した生活を手に入れられたのに美雨の成績が下がっている、というようなことを言われました。美雨は母親のため、今の家庭がうまくいくよう、気を遣つて「びくびく」して暮らしていたからこそ、許せない一言だったのでしよう。ア「成績が下がりに続いていて悩んでいるというのに」「あきれかえっている」「イ「つきはなした態度」「動揺」、エ「美雨…に寄り添うべき」「成績…にしか興味がない」の部分それぞれ不適切です。

問三 B1 具体化 比較

線③「空中にただよっているかもしれない言葉たち」とは、美雨の「勝手に結婚して…なにそれ！」です。「せつかく今まで気をつけてたのに」思わず出た本音です。「回収した」というのは、出てしまったものを集めてしまひこみたい、ということでしょう。ですから、答えはエです。今の家庭の平穩を守るために言わずにいた言葉を言ってしまったことによるあせりや動揺が読み取れます。ア「冷静になつて説明したい」、イ「心の底から反省している」、ウ「本心ではないことを説明したい」の部分がそれぞれ誤りです。

問四 B1 具体化 比較

「見ひらいた目」「宙にさまよわせ」という表現から、驚きや、動揺の気持ちを読み取れます。今まで何も言わなかつた美雨が「きき苦しく裏がえつた」声で、責め立てたことにおどろき、動揺したのでしよう。はげしい動揺の気持ちはその直後の「無意識のうちに…もんでいた」からもわかります。強い驚き、動揺の気持ちですから、振り返ることが必要な「反省」や「改心」などの気持ちまでにはいたりません。

問五 B1 理由 比較

「ききたく」ないのは母親の「しどろもどろになりながら」している「言い訳」です。母親は、大也に美雨が何に怒っているのか言いたくないのです。それを言ってしまうと、今の家庭の平穩が崩れてしまうからです。美雨はそれを何より恐れている母親の姿を見たくないでしょう。なぜなら、線⑥の五行後にあるように「お母さんはあたしより塚本さん

たちのほうが大事なんだ」と思わざるを得ないからです。よつて、答えはイです。ア「大也と母親が：仲良く楽しげな会話」、ウ「母親に嫌われている」、エ「美雨が不安定になっている」とをばらす母親「憎んでしまいそう」などの部分が誤りです。

問六 B1 理由 関係づけ

線⑥「そのほうがよかった」とは、中古のベッドの方がよかった、ということ。その理由は直後に書かれています。「新品のベッドなんて、重すぎる。どうせあたしは欲しくもないのについてきたおまけなんだから」の部分です。塚本さんにとって自分は、母親についてきた「欲しくもないのについてきたおまけ」だと考えていて、お金をかけてもらうのは気が重いと考えているようです。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七 B1 置換

この骨董屋と対照的な店が塚本さんで行ったリサイクルショップであることに注目しましょう。骨董屋の品物が「ぼつんぼつん」と間隔をあげて整然と置かれているのに対し、リサイクルショップでは、いろんな種類の品物が「所狭し」と置いてありました。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八 B1 理由 比較

線⑧の直前に「本当の親子だったら：美雨にはムリだつ

た」とあるように、美雨は塚本さんが親しみを持って接してきても、親子のようにふるまうことはできません。でも、線⑧「胸はほんのり温かかった」とあるように、うれしい、という気持ちはあることがわかります。ア「親子のようにつきあえる気がした」、イ「繊細な人」、ウ「茶碗のことを思う」と：胸が高鳴る」の部分が本文の内容とあいません。

問九 B1 理由 関係づけ

線⑨に「ふわふわ歩いてる」「恋でもしたんか」とありますが、これは美雨が骨董屋でみた茶碗の美しさに夢中になっている様子をたとえたものです。「頭の中」という言葉と関係があり、美雨が茶碗に夢中になっていることがわかる部分を本文中から探しましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十 B1 具体化 比較

線⑩の直後に「自分で自分に舌打ちした。せつかくいい感じだったのに、台無しじゃん」とあるように、自分のかたくなな態度で、母親が喜ぶ仲の良い家族という雰囲気壊してしまったことにいらだっていることがわかります。塚本さんや母親に距離をぐっと詰められると、どうしていいかわからず拒否してしまう、でも一方でうまく家族をやつていきたいという気持ちはあるので自分のしたことを後悔する、という二つの気持ちの間で苦しむ美雨の気持ちを読み取りましょう。ア「母親にぬれた手で触られただけでいらだつて」、イ「母親のことをにくにくしく思う」、ウ「塚本さんにも：母

親にも腹立たしい」の部分それぞれ不適切です。

問十一 B1 関係つけ

脱文挿入の問題では、そのもともとあった文のつながりごとくばや指示語、そこでしか使われていない特徴的な言葉に注意することが大切です。この場合、「くしゃくしゃに」ということばに注目しましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 田中優子の『グローバリゼーションの中の江戸』（岩波書店）

から出題しました。「グローバリゼーション」とは、社会や経済が国や地域を超え、地球規模でつながり、その結果個々の地域や国の生活や文化に大きな変化を引き起こすことです。インターネットの発展などは、その最たるものでしょう。私たちは、日本にいながら、世界中の組織や個人が発信しているあらゆる情報にアクセスできます。一方、世界中がつながったことで、国家間での競争は激しくなり、経済力がある国から流れてくる「豊かな生活」の情報を知ってしまったばかりに自分たちの生活が時代遅れで貧しいものだと感じ、消費すること、競争することにのめりこんでいく…という負の側面もあります。この文章では、グローバリゼーションの中で、食文化の多様性が失われつつあることに警鐘をならしえています。江戸時代においては、自分たちの住んでいる地域の中で食べ物となる植物のみならず、道具をつくるための植物を育て、土にかえるまでありますことなかつかってきました。グローバリゼーションの弊害があらゆる場面で出てきている今、そ

ういった江戸の人々の暮らしを学び、自分たちの今の暮らしを省みてもよいかもしれません。

問一 B1 関係つけ

「米は①の文化と言われますが、よく考えると世界中で作っています」というように、逆接の形で「世界」が出てくることに注目しましょう。この段落において「世界」と対照的な表現は「日本」です。また、「中国南部も台湾も韓国朝鮮もヴェトナムもタイもミャンマーもインドネシアもスペインも西アフリカのいくつつかの国も、主食は米です。米は②の文化なのです。」とあることから、②には「中国南部：スペインも西アフリカのいくつつかの国」をまとめた言葉が入るはずですが。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問二 B2 理由 推論

味覚の多様性によって、「様々な品種が地球上に残り、環境の変化である種が絶滅しても別の種が残る」のはなぜか、という問題です。この「味覚の多様性」というのは、民族によって「おいしい」という感覚がさまざまであるということを指しています。「おいしい」という感覚がさまざまだから、民族によって作る作物が違うのです。つまり、作物をそれぞれの味覚に従って改良していくから「様々な品種が地球上に残る」わけです。ですから、①民族によって『おいしい』と思う感覚はさまざまで、②それに従って作物を交配によって改良している（作物を作っている）、という二点が書かれているかど

うかが採点のポイントになってきます。理由を問われているので、文末表現にも気をつけましょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問三 B1 具体化 比較

——線④の続きが「(中心的な組み合わせがあれば)その他は様々な出入りや付加があってもかまわないのです」であり、その直前の文が「米と大豆(味噌、醤油)と海産物があれば、日本の食文化は残ります」であることに注目しましょう。「中心的な組み合わせ」とは日本の場合「米と大豆(味噌、醤油)と海産物」です。ですから、答えはイです。ア「一番の花形となる、メインのおかず」、ウ「その土地に住む人々だけが」、エ「毎食主食として」の部分がそれぞれ誤りです。

問四 B1 具体化 比較

——線⑤の直前の文に「ヨーロッパにも、日本の茶：アメリカのカボチャ、ジャガイモ、トウモロコシ、トマトが入り、食生活を大きく変えました」とあります。ヨーロッパに世界中から食べ物が入り、ヨーロッパ人の食生活が大きく変わったということ。「その影響を受けて」フランスではそれまでアメリカにしかなかった「カボチャ」を馬車にした、という流れです。ですから、答えはエです。ア「アメリカから輸入された食べ物によって：味覚が」の部分が誤りです。

問五 B2 具体化 関係づけ

——線⑥の直前に「日本では戦後、学校給食によってその試みがなされました」とあって、——線⑥は日本における「その試み」の内容になって注目に注目しましょう。「その試み」とは、「農業生産物を輸出するため、様々な手段でその味覚を変えようとする」試み、です。日本の場合、それは戦後起こったことですから、「誰が」にあたる「経済力や軍事力のある国」はアメリカです。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問六 B1 具体化 比較

「のつべらぼう」とは「凹凸もない一面なめらかなこと」ですから、様々な、多様性がないということのたとえでしょう。——線⑦を含む一文を見ると「そういう意味でのグローバルゼーションには気をつけないと：危険な世界になるのです」とあって、「のです」という文末からもわかるように、前の文の補足説明になっていることがわかります。直前の文では、「生物の多様性：生活文化の多様性が急速に失われています」とあります。これらのことから、答えはウです。

問七 B2 具体化 関係づけ

——線⑧を含む段落とその次の段落に細かく書かれています。——線⑧の四文後に「菓は：たいへん重要な生活素材でした」とあり、以降、「たいへん重要な生活素材」である菓がどんなふう利用されてきたか具体的に書かれています。菓でさまざまな道具や衣服が作られたこと、そ

してそれが最終的には肥料になったとあります。問われていることについて、本文中のどこからどこまで書かれているのか、しつかりおさえてその部分から答えをぬき出すようにしましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八 B1 関係つけ 比較

⑨は段落の頭にあるつなぎことばですので、その前後の段落の関係を読み取りましょう。⑨の前の段落では、藁がさまざまな道具や肥料になったことが書かれ、⑨を含む段落では、藁が衣服やむしろなどになったことが書かれています。並列の関係ですから、ここには「また」が入ります。

問九 B1 関係つけ 比較

文の並べ替えの問題では、接続語や指示語などに注目しましょう。イ「それは食べ物だけになるわけではなく、衣食住全体の素材になっていました」の「それ」が指すものは「各種の植物」です。ですから、ウ↓イという流れができます。ア「コウゾやミツマタを育てれば」とあります。⑩の直後の文は「麻や綿花や桑を育てれば」なので、アの文は「各種の植物」がどのように使われていたかの例の部分だとわかります。ですから、答えはウ↓イ↓アです。

問十 B1 関係つけ

⑪の直前に「藁と同じく使い終われば」とあるので、「使い終わった」藁がどうなるか書かれている部分を探します。

藁について書かれている段落に、「肥料に使ったり」とか「土に戻ります」という表現がありますね。⑪に戻ってゆきます」とあるので、ここには「土」が入ります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十一 B2 抽象化 比較

正誤問題ですので、選択肢の内容を一つずつ丁寧に読み取ります。本文中では、「四〇〇五〇年ほど前まで、タケノコの皮は肉屋でよく使われていました」とあるので、イ「現在でも肉を包むものとして広く使用」の部分は誤りです。「奈良時代は中国に学んで蜜蝋を使っていました」が、その後途絶え」とあるので、エ「江戸時代使われていた」の部分が誤りです。オ「外国から農作物を輸入したり：真似したりするのはやめるべき」という記述は本文にはありません。

③ A1 知識 比較

色が入ることわざ・慣用句の問題です。

- ① 白羽の矢が立つ：たくさんの中から特に目をつけられ、選ばざれる。
- ② 黄色い声援：若い女性や子どもたちの甲高い声援。
- ③ 赤の他人：自分とは全く関係のない人。
- ④ 青くさい意見：未熟な意見。
- ⑤ 腹が黒い：心がぐがんでいて、悪事をたくらむようす。

④ A1 知識

四字熟語の問題です。それぞれの意味もきちんとおさえて

おきましよう。四字熟語の中に漢数字が入るものは頻出ひんしゅつです  
ので、しっかりと覚えておきましよう。

① 一期一会…一生に一度の出会いや機会。

② 二束三文…数が多くても、非常に安い値段ねだんにしかならない  
こと。

③ 四苦八苦…非常に苦しむこと。

④ 百発百中…必ず命中するという意味が転じて、予想などが  
すべて当たり成功すること。

⑤ 九死一生…ほとんど死にそうな状態からやっとのことで助  
かること。